

指差喚呼のエラー防止効果の検証

増田貴之 重森雅嘉 佐藤文紀 芳賀繁

本研究では、5つのエラー防止効果について実験的に検証した。ディスプレイに提示されたターゲットの点を数える課題を用いた、指差の視線停留効果の検証や、繰り返し実験刺激を提示した後にN個前に提示されていた刺激は何であったかを答える課題(N-back課題)を用いた、喚呼の記憶強化効果の検証など、指差、喚呼それぞれについてエラー防止効果を検証した。その結果、明確に効果が見られたものもあれば、明確には見られなかったもの、別の効果の可能性が残されたものもあった。今回取

り上げた効果以外のエラー防止効果も含め、今後さらなる検証が必要である。エラー防止効果を実験的に示すことで、現場作業員に対して、科学的な知見に基づいた指差喚呼の教育を行うことができる。また、こういった効果によってエラーが低減するのかを教育することで、納得感を持って指差喚呼を行うことが可能になる。今後、本研究で得られた知見を指差喚呼の教育に活用できる。

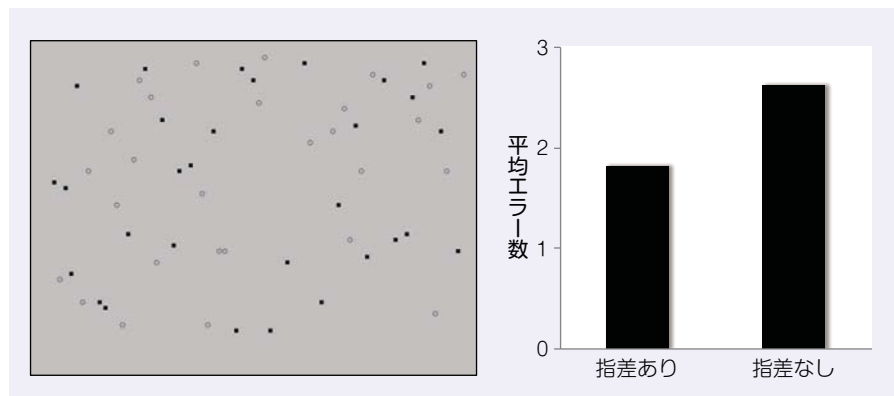


図 実験課題の例(点数え課題)とその結果